

## 私のカルテ

No. 376

## 腹腔鏡による鼠径ヘルニア手術

津島市民病院  
外科医師小林  
龍太郎

## 鼠径ヘルニアとは？

ヘルニアとはラテン語で「突出」という意味で、本来お腹の中にある腸や脂肪の一部がお腹に圧がかかると鼠径部(太ももの付け根)からぼっこりと膨らんでくる病気です。一般的に脱腸と言われており、良性疾患です。

## 鼠径ヘルニアの症状は？

まずは鼠径部にやわらかい膨らみができます。立ち上がった状態やお腹に力かけた状態の時に膨らみやすく、手で押したり横になったりすると膨らみはなくなります。この膨らみが出たり引っ込んだりを繰り返すと徐々に膨らみも大きくなり、違和感や痛みなどの症状を伴います。さらにこの膨らみが戻らずに硬くなってしまふ状態のことを嵌頓かんとんといい、腸がはまり込んでしまい腸が腐る可能性があるため緊急手術が必要になることがあります。

## 鼠径ヘルニアの原因は？

腹壁には、本来は固い組織である筋膜と筋肉があり、さらにその内側に腹膜という薄くて伸びやすい膜があります。これらが腸管などの腹腔内臓器を包んでいます。その筋膜に弱い部分があると、そこに腹圧が集中し伸びやすい腹膜がたるんでヘルニアのうと呼ばれる袋を形成します。このヘルニア囊を通じて、腸管や腹腔内脂肪が皮膚の下に脱出してしまふのがヘルニアです。小児では先天的にヘルニア囊が存在することが原因であると考えられます。成人では加齢に伴い組織が弱くなるのが原因となることもあります。長時間の立ち仕事や、慢性的な便秘や咳嗽がいそうがあるとお腹により圧がかかるため、ヘルニアになる可能性が高くなると考えられます。

## 鼠径ヘルニアの治療は？

治療は、脱出しているヘルニア内容物を元のおなかの中に収めて、ヘルニアの出口を閉じることにあります。この修復にメッシュを用いない「組織縫合法」とメッシュを用いる「メッシュ法」の2つがあります。「組織縫合法」は昔から行われている方法で、ヘルニア囊を切除し、健

常な腹壁(筋膜)を直接縫合閉鎖する方法です。自分の組織のみを使用するという点でメリットがありますが、デメリットとして、過度な緊張がかかるため、術後の疼痛や張り感が強く、またヘルニアの再発が高いといわれています。現在の大半の手術は「メッシュ法」で行われています。最近では、直接鼠径部を切開して治療する従来法以外に、手術用の内視鏡を用いた腹腔鏡手術があります。

## 腹腔鏡による鼠径ヘルニア手術とは？

腹腔鏡手術は、ポートと言われる筒を腹腔内に3本挿入し、その筒を通じて内視鏡や操作に必要な器具を挿入し、内視鏡の画像を映し出した大きなモニターを見ながら行う手術です。腹腔鏡によるメリット・デメリットを紹介します。

## &lt;メリット&gt;

- 術後早期の疼痛が従来法より軽減します。
- 創が小さく美容的です。
- 慢性疼痛(1年以上)が減少します。
- 術後早期の社会復帰が可能です。
- 複雑なヘルニア(合併する複数のヘルニア、反対側のヘルニア)の診断が容易です。
- 両側ヘルニアでも同一創での手術が可能です。

## &lt;デメリット&gt;

- 必ず、全身麻酔で行う必要があります。
- 従来の方と比較すると、手術時間が長く(1時間半ほど)かかります。

腹腔鏡による手術は、従来法と同じく2泊3日入院での手術が可能です。お腹の手術をしたことがある人や全身麻酔をかけることができない病気があると、従来法による手術が選択されることがあります。

当院では、術後疼痛や違和感の少ない腹腔鏡による鼠径ヘルニア手術を積極的に行っています。鼠径部の膨らみや痛み、違和感などの症状が認められたら、気軽に当院一般外科を受診してください。